

Ruby協からIoT/ウェアラブル開発者向け
教育キット ★ 発売決定！

SenStick3 mruby/c



このたび！ 一般社団法人 Rubyビジネス推進協議会では
奈良先端科学技術大学院大学 荒川准教授が開発された
超小型センシングボード『SenStick』に
島根県と共同で九州工業大学 田中准教授が開発した
mruby/cを搭載した

IoT/ウェアラブル開発者向けの教育キットを開発中！
来春までに、発売を開始します！

一般社団法人 Ruby ビジネス推進協議会

〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島 6-1-1 新大阪プライムタワー 20F
(アルカディア・システムズ株式会社内)

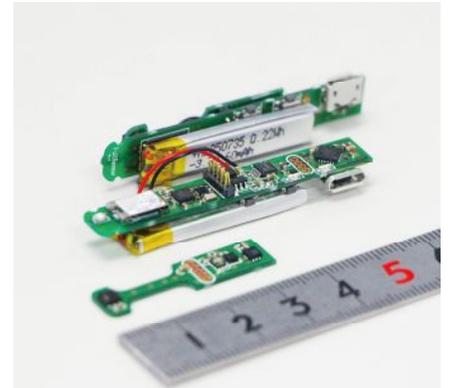
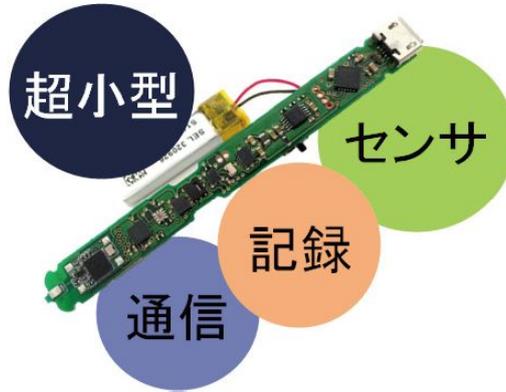
TEL 080-2503-5314 FAX 06-6390-0041 ✉info@ruby-b.com

SenStick3 mruby/c の紹介

SenStick とは

奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科, 荒川准教授が開発された超小型センシングボードで, わずか 3g の重さでありながら, 加速度・地磁気・ジャイロ・温度・湿度・気圧・明るさ・UV といったあらゆるセンサと, BLE による通信機能を備えたボードです。

これを活用し, 身の回りのモノに取り付け, その動きを観測, 分析することで, IoT (Internet of Things) とは何なのかを実践的に学習することができます。



mruby/c とは

しまねソフト研究開発センターと九州工業大学 情報工学部 田中准教授によって開発されている Ruby の特徴を引き継ぎつつ, プログラム実行時に必要なメモリ消費量が従来の mruby (福岡で開発された組込み向けの軽量 Ruby) より少ない mruby の実装です。センサーネットワークや, ウェアラブルなどの小型端末に向けたソフトウェア開発に向いています。(http://www.s-itoc.jp/activity/research/mruby/)

IoT デバイスを開発していく上では, 省電力であることは重要であり, センシングが不必要な時には段階的にセンシング粒度を下げるなど, ハードウェア動作のダイナミックな制御が必要となってきます。そこで, mRuby/c を組み込むことで, ファームウェアに相当する部分をスクリプト言語 Ruby で簡単に記述することができるようにする。これにより, ハードウェアの制御からアルゴリズムまで, IoT の実践教育を実現することが可能になります!



SenStick3 mruby/c Coming soon...!

ボードの開発は以下のようなロードマップで進んでいます。

Ruby 協の教育事業では並行して, この教育キットを使った IoT 実践の教育コンテンツの開発を行っています。Ruby 技術者の適用サービスの拡大と技術力向上をめざし, 優先的に, Ruby 協の会員様から教育キットの提供を開始いたします。次に, Ruby 協およびその会員を通し, ソフトウェア開発企業, 個人技術者, 学校, 研究者向けに教育コンテンツ販売および教育事業を行ってまいります。

Ruby 協では, この事業を通じ, ソフトウェア開発企業からモノづくり企業様向けの提案, IoT デバイスのプロト製作や研究開発に利用され, ソフトウェア開発企業とモノづくり企業とのエコシステムの役割を担い, 中小企業のソフトウェア産業の底上げをはかる一助を担える事業へ育てたいと願っています。

2014

2015

2016 Spring

2016 Winter

	2014	2015	2016 Spring	2016 Winter
Hardware	SenStick nRF51 1 board sensor 8mm x 75mm 3.5g Micro USB	SenStick2 nRF51 2 board sensor 8mm x 50mm 3.5g Micro USB	w/wireless charge nRF51 1 board sensor 8mm x 50mm 3.5g Wireless charge Water Proof	SenStick3 nRF52 1 board sensor 8mm x 50mm 3.5g Wireless charge Water Proof
Firmware		Wireless Sync	Wireless Sync Wireless DFU	mRuby/c